

# 中小規模企業の健康関連課題への多面的アプローチの構築

氏名：國本 政瑞沖  
指導教官：城戸 宏史

## 要旨

国内の少子高齢化は、経済活動の様々な領域で急速な労働力の減少を呈している。更に経済環境の変化も重なり労働力の質も大きく変遷し、特に高齢労働者、外国人労働者、そして非正規社員の比率は経年的に増加した。この背景の中、労働者の健康に関連した問題も顕在化している。1例として、業務に起因した疾病は12万件と直近の10年間で2万件増加し、その最多疾病は「転倒」である。また業務ストレスによるメンタルヘルス不調は普遍的な疾病となり、企業の2社に1社は不調者を抱えている。

そして中小規模企業では、労働力不足による種々の影響が生じやすく、更に健康に関連した問題への対策のリソース不足も相まって、より影響が生じやすいことが予想される。よって本研究では、中小規模企業におけるこの実態を調査し、その背景因子を分析することで解決の多面的アプローチを構築することを目的とした。

調査は、中小規模企業の経営者と労働者の双方向から実施した。まず経営者へのヒアリング調査を8名に実施し、健康関連問題の発生と経営への影響の有無、そして対策意識への意見を聴取した。次に、ヒアリング結果を踏まえたアンケート調査を183企業に行い、具体的な疾病名と経営への影響度、経営者の対策意識を定量化した。この結果をロジスティック回帰分析にて検証したところ、幾つかの疾病と経営への影響と、また経営者の影響と産業医の選任の有無とで、それぞれ有意な相関を認めた。

次に労働者へアンケート調査を実施し、計492名分の回析を行った。調査では健康への行動と意識の評価に加え、健康を規定する能力のヘルスリテラシーを6項目と、労働に特化したワークモチベーション4項目を測定した。ロジスティック回帰分析による回析では、健康への各行動や意識に対して、労働者の属性と一部のヘルスリテラシーおよびワークモチベーションが有意に関連していた。更に、労働者のストレス評価であるストレスチェックが過去に実施されていた243名へ追加検証を行った。重回帰分析の評価で、ストレス反応へは業務の負荷と仕事満足感が強く相関し、更に一部のヘルスリテラシーとワークモチベーションの関連性も明らかとなった。

以上の結果を包括的に考察した企業の健康関連課題への方策を、新規フレームワークによって提唱し、更に経営者、労働者、および企業周囲からの3方向によるアプローチを提案した。本観点での研究調査は検索した範囲では認められず、新規性の高い研究と考えられた。